

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200168		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 めくもり(Aユニット)		
所在地	別海町西春別駅前寿町118番地		
自己評価作成日	平成 30年11月5日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0194200168-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入所者様と一緒に過ごす時間を大事にしており、季節の行事や作品作りを一緒に行いながら、入居者様の状況を把握して、笑顔が溢れる取り組みを考えております。 また、近隣の方のボランティアとして手踊りやカラオケを行って下さり、地域に密着した環境づくりを行っております。 職員に関しては、内部研修を開催し、知識・技術・意欲の向上を図りながら、職員同士が同じケアが出来る様な環境づくりを心掛けております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は平成28年12月に開設し、西春別中心部のゆるやかな丘陵の酪農地帯、旧西春別駅と町立別海病院西春別駅前診療所近くの閑静な住宅地にある。木造平屋L型の建物で、L型の角には広い台所、その周りには各ユニット用の食堂スペースとユニット共用の多目的ホールがある斬新的で機能的な特徴を有し、台所のスペースには移動可能な大きな調理台が2台あり、利用者は職員と一緒に餅作りをしたり、ちらし、クッキーを作ったりして食事を楽しんでいる。多目的ホールには通信カラオケが設置されており、利用者は地域住民と一緒にカラオケを楽しんでいる。また、幼児用としてベビーサークルがあり、職員と一緒に幼児が来て利用者の癒しを得る存在となって、全体的な雰囲気が和む良い環境になっている。地域との密着を前面に出して地域住民との交流に努めており、神社の祭りや仮装盆踊り、保育園の運動会練習などを見学して地域住民との交流に努めている。小中高と行事を通して交流し、インターンシップを実施するような交流を深めていく。別海町周辺は冬になるとスタッフが帰宅できないような荒天になる為、2段ベッドがある宿直室が備えられている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はリビングや玄関に提示しております。毎朝の申し送りやミーティングの際に唱和を行い、周知・把握・実践に活用しております。実践しながら、理念を理解出来ているかの確認をしております。毎月、目標を立てて行なっております。	前回の次のステップに向けて期待したい内容については、新たに事業所独自の理念を作成し、目標を達成した。玄関入り口とリビングに掲示されている。日々の申し送り時に唱和したり、外部研修やミーティングで確認し、ケアの実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しております。地域との交流を大切にし、幼稚園や保育園のお遊戯会や運動会の見学や、日赤奉仕団の方からご招待を受け行事に参加しております。	町内会に加入しており、地域のお祭りや防災訓練に参加して交流を深めている。また、地域のボランティア女性部がウエスを切ったり、散歩に出かけたりと支援を得ている。中学校から職場体験の申し出もあり、来年から実施するか検討している。地域住民が来所してカラオケをしたりして利用者との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で定期的に認知症の理解や支援に繋げるために意見交換を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での行事や取り組み、職員の資質の向上(研修・事故報告等)、課題などを議題に報告・相談し、意見を参考にサービスに活かすように心掛けております。	会議には役場職員、地域包括支援センター職員、消防署職員、連合町内会会長、入居者家族、地域の方等が委員となって年6回開催されている。会議では運営や防災等の報告をし、意見や助言を得てサービスに活かしている。会議後はテーマを決めて勉強会を開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者は、情報や連絡事項を通知して下さいます。運営推進会議の概要報告で状況を把握して頂き、必要時には確認等の連絡を行える関係づくりを心掛けております。	役場職員とは運営推進会議で事業所の情報は把握されており、福祉関連の指導や助言、生活保護の対応についても相談を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人感センサー利用は数名いますが、職員同士が日常ケアを行いながら、入居者様の状況を把握し、情報を共有しながら、身体拘束・行動制限を行わない様に取り組んでおります。やむを得ない拘束が必要な時は、ご家族様へ説明・同意・理解を頂き、書面を交わしていきます。	職員は身体拘束についての勉強会や外部研修を通し、具体的行為とその弊害について学び、理解している。また、書面で拘束に関し明示し家族に契約時に説明している。スピーチロックについてはスタッフ同士で報告しながら行動制限を行わない様に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を行い理解を深めながら、高齢者虐待防止について現状に無いか確認します。また、職員のメンタルヘルスケアにも留意していきます。		

グループホーム育成会 めくもり(Aユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入所者様の中に成年後見人制度を利用されている方はおりませんが、内部研修などで、権利擁護について研修を行い、理解し必要な援助に活用していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は十分にしており、理解を頂いて締結しております。また、改定・変更がある場合にも、書面等や直接説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱、アンケート用紙を置いています。また、ご家族様が来訪時や電話などで入居者様の近況を報告し、ご家族様の要望などを頂きながら、サービスの向上に努めております。	利用者からは日常の会話や生活の中から、家族等からは来訪時や毎月発行の「めくもり通信」を通して意見や要望を聴くよう努めている。出された内容は記録して職員間で共有し、サービスに反映できるようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長との面談もありますが、定期的に幹部会議を開催しており、その場にて職員の意見や提案を取り上げる機会を設け反映しております。	日常業務やスタッフ会議で職員の意見や提案を聞く機会があり、施設長も個別に自由に話し合う場を持つよう努めている。人事考課は年1回実施され、職員から出された意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を職員の実績に応じて行ない、キャリアパスを設け、向上心を持って働けるよう環境づくりに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加して、研修内容を職員会議などで他の職員への情報の共有を図りながら、ケアの中で実践し、確認・理解し合いながら、スキルアップに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会やその他の団体が開催する研修会や交流会に参加出来る環境づくりを行いながら、サービスの質の向上に取り組む、他の事業者との情報交換が出来る様、心掛けております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が関わる支援事業所や医療機関より、情報を提供して頂き、ご本人の不安な事、求めている事を安心して相談できる関係作りや雰囲気作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所者様が関わる支援事業所や医療機関からの情報を提供して頂き、家族との面談の機会を作りながら、信頼関係を築いていける様に心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談や面談の際に必要なとされる支援の見極めを行い、求められている支援ついて、全職員で話し合い、初期の介護支援計画を立てる様、努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者様の能力を把握し、一緒に行うことよって、入居者様から教えて頂け、互いに支え合う関係を目指しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会や連絡などにより、ご本人様の様子を伝えると同時に、ご本人様の要望をご家族様へお伝えしております。また、行事等がある際には、必ずご家族様へ案内し、一緒に過ごす時間を作れるように心掛けております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人への電話や来訪を快く受けております。ホームでの様子をお伝えすると共に、お互いの情報交換を行いながら、より良い関係作りを心掛けております。外出への要望には対応できるように努めております。	家族は利用者の部屋で、友人・知人はリビングにてくつろげるよう支援している。家族同伴で外出したり、お祭りなどに職員同行で出かけ、馴染みの場所や商店などとの関係が継続するよう、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士と一緒に過ごす時間をもち、談話をして、優しい言葉掛け合ったり、生活を共にしております。時には、トラブルになる事もありますが、職員が介入し、話題を変えるなど調整を図っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要とされる対応を行い、これまでの関係性を大切に、近況報告しやすい雰囲気作りを心掛けております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いを職員間で共有・把握し支援に努めております。困難な場合は、本人の行動や言動を感じ取り、検討しております。	家族から得た情報や、入居者の日頃の行動や表情等、思いや暮らし方の希望や意向をくみ取り、職員間で情報を共有している。また、意向等を上手く伝えられない利用者に対しては、普段からの様子や状態を注意深く観察し、汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様から情報を頂きながら、センター方式を活用し、生活歴やサービス利用の経過の把握に努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の能力を把握し、体調変化や表情・しぐさ等の観察を行い、その人らしい生活が送れるよう努めます。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が担当者となり、本人の生活への要望や家族の意向を伺いながら、また、聞き取りが困難な入居者様の思いも理解できるようにセンター方式を活用し、介護計画を作成しております。	利用者や家族の意見、要望を基に、モニタリングを行い、計画は短期で6ヶ月毎、長期で1年毎に介護計画を見直し、家族の同意を得ている。状況の変化があった場合は、その都度計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調変化や言動・行動などを把握しながら、ご家族様と情報交換を行い、介護計画の見直しに活かしております。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調変化や言動・行動などを把握しながら、ご家族様と情報交換を行い、外出や病院受診の対応を、職員ご家族様が行っております。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流を大切に、地域の行事などに参加しております。今後、災害時や徘徊の対応など、理解を頂きながら、協力をお願いしていきたいと思っております。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や緊急時の受診について、ご家族様との連携を図りながら、情報提供票を作成し適切な医療を受けられるように支援しております。	かかりつけ医の受診は継続的に支援している。受診時は基本的には家族対応だが、職員が付き添い受診することもある。受診記録は同行した職員や家族からの報告を基に作成しており、常に利用者の状態が把握できるようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員へ入居者様の状況や治療経過の報告を看護ノートを作成しながら報告を行い、相談や助言を頂いております。また、受診の際に主治医への報告に関して相談・助言を頂き、適切な医療が受けられる様、健康管理支援に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者様が入院した際、看護添書を作成し医療機関へお渡ししております。ご家族様との連絡も常に行い、定期的な訪問も心掛けております。退院の際も、医療との情報交換を行い、速やかな受け入れ態勢を整えます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて事前にご本人様・ご家族様への看取りについて話し合いを行い、ホームでの対応についても説明し、書面にて同意を頂いております。状態の変化に応じて、ご家族様・医療関係者・職員等との情報と共有と方針の確認を行います。	契約時に「終末期介護に関する指針」に基づき、利用者や家族に説明し同意書を得ている。看取りまで行っていないが、重篤になった場合は家族より病院で看るという要望がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が早期に対応出来る様、急変時の緊急マニュアルを作成し、研修や職員会議等で確認しております。AEDを設置し、使用方法も講習しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した訓練を定期的に行っております。少人数での消火・通報・避難誘導を行うため、町内会・消防団・近隣の方にも訓練に参加して頂き、協力体制をお願いしております。	消防署立ち会いで年2回の避難訓練(昼夜想定)に加え、行政及び地域を含めた協力体制で地震や水害等の災害訓練に参加している。	平成29年8月北海道保健福祉部公示の「社会福祉施設等における非常災害対策計画の策定の手引」を参照して、マニュアル整備(ブラックアウト、緊急連絡網、避難手順、備蓄等)を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけない様に接する事に努めております。個人情報については、事務所内書庫にて保管・管理しております。	接遇マナーとして研修をしており、日々利用者の穏やかで表情等の判断しながら尊厳に配慮した言葉使いや態度が実践されている。各種個人記録もプライバシーが守られるよう適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様・職員と一緒に過ごす事で、相談できる関係作りを行い、入所者様が何を思い、何を求めているのか会話の中から察する事を心掛けております。個々に合わせ、対応・説明しながら自己決定が出来る様に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかな雰囲気大切に、ご本人様の思いや願いを優先して「楽しい」「出来た」「また、やりたい」と喜びや楽しさを共感し合える支援を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の自尊心を傷つけないように、整容や身だしなみを行い、さりげない声掛けを心掛けております。また、定期的に訪問理容師に依頼しております。		

グループホーム育成会 めくもり(Aユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者様の能力に合わせた作業を分担し、職員と一緒に料理・片付けを行い、入居者様と職員と一緒に食事を楽しむ事が出来る様に心掛けております。	利用者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで協働で行っている。移動可能な大きな調理台があり、そこでは利用者と一緒に餅を作ったり、ちらし、クッキーを作って食事を楽しんでいる。また、花見を兼ねて近隣の公園でバーベキューをしたりして、楽しい食事の提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水や低血糖等を起こさない様に、水分・食事摂取量を記録し、栄養バランスが保てるよう心掛けております。必要に応じて介助を行っております。必要な水分量が摂取出来る様、小分けに回数を増やすなど支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを実施しており、ご自身で出来る方はご自身で、介助の必要な方は義歯、口腔洗浄等を行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在はおむつ使用はおりませんが、おむつ等が必要な入居者様も、夜間以外は毎食後や定期的なトイレへ誘導し、自力排泄を促しております。	利用者全員の排泄状況を把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。脱オムツを目指し、トイレでの自立した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握しながら、排便コントロールを行っております。必要に応じた飲食物を提供したり、入居者様の体調に合わせて散歩や外気浴・体操・ゲーム等で体を動かす取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の意向や体調を確認しながら、気持ちよく入浴して頂けるように、支援しております。拒否される方に対し、言葉を選びながら、職員交代しながら促しを行っております。状況に応じて足浴を行っております。	一人ひとりの希望や体調に合わせ、リラックスして週2から3回入浴できるように支援している。浴室はカーテンを間仕切りに四方フリーの浴槽が2つあり、2ユニットが同時に利用できるようになっている。利用者の状況により介助がしやすいようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣や日々の状況に合わせて、安心して睡眠が出来る様、個々に合わせ配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人の持病と服薬内容や副作用等を把握し、症状の変化があれば看護職員や主治医・ご家族様への報告・相談しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の出来る能力を、日常生活の中や生活歴の中から把握し、能力を発揮できる場作りを心掛けております。また、趣味がある方には、必要な準備を行います。		

グループホーム育成会 めくもり(Aユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援に心掛けております。ご本人様の希望により、買い物へ出かけた時、ドライブ等にも出かけております。また、車いすでも入れるお店を探し、外食などにも出かけております。	本人の意向を確認して近隣公園への散歩や買物、地域行事等にも出掛けたり、ドライブで外食する等、日常生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。また、家族支援を受けて外食や外泊などを楽しんだりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の要望に応じ、少額を本人に渡し、買い物の際は、自らお金の管理をして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望される時や定期的にご家族様と連絡が取れる様に努めております。その際、ご家族様にも連絡をする旨、協力を促しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下・食堂・玄関には、季節の飾り物を置いたり、入所者様と一緒に作成し、季節を感じて頂けるように工夫しております。	L型の事業所の角には2ユニット共有の広い台所があり、広くて明るい多目的ホールと食堂が配置されたゆったりとした空間が広がっている。ソファも適当に配置され、好きな場所で自由に休むことができる。また、通信カラオケ装置があり、カラオケを楽しむ利用者がいたりと思いに居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、食事を終えるとソファに座り入居者様同士で会話を楽しまれたりと過ごされております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅で使っていた馴染みの家具をお持ちいただくようお願いしております。ご家族様の写真や、ご本人様の好きな歌手のポスターを飾るなど居心地の良い環境づくりを心掛けております。	クローゼットとカーテンが備え付けられ、利用者は使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、思い出の品や写真などを飾り、居心地の良い安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の能力を把握するセンター方式を活用し安全・安心して自立した生活が送れるように工夫しております。		